

## 高次脳機能障がいのある方をサポートするとき

【大切なこと】 ポイントをしばって、

「ゆっくり」「はっきり」「具体的に」話をしましょう。

### ■ 主な特性等

「病気（脳卒中等）」や「事故（頭部のけが等）」により脳を損傷した後遺症として見られる障がいで、症状の現れ方には大きな個人差があります。身体の障がいが見られず、一見しただけでは障がいが目立たないため、周囲の理解が難しいことがあります。

例えば、次の障がいがあります。

- 用事を忘れる、名前を覚えられない、事故（病気）前のことを忘れている等の<sup>きおく</sup>記憶障がい
- 臨機応変な対応ができない、融通が利かない、こだわる、見通しが立てられない等の<sup>すいこうきのう</sup>遂行機能障がい
- 見落とし等単純なミスが多い、話を聞いていないことがある、集中力が続かない、切り替えができない等の<sup>ちゅうい</sup>注意障がい
- 無気力、やる気がしない、場にふさわしい行動が取れない、すぐに怒る等感情の抑制が難しい等の<sup>しゃかいてきこうどう</sup>社会的行動障がい
- 自分の問題に気づかない<sup>気づき</sup>の障がい、すぐに疲れてしまう神経疲労、落ち込む抑うつ、歯ブラシで文字を書こうとする等、正しい行動ができない失行、トイレが目の前にあってもトイレと認識できない等、身近な物や体を認識できない失認、言葉を聞いたり、文字を読んだりして理解することや、話したり書いたりすることすべてにわたって障がいを受けている失語があります。

## ■ 避難誘導の仕方

- コミュニケーションのとり方は、一度にたくさんの情報を伝えるのではなく、一つずつ伝えましょう。

具体的には、

- ポイントをしぼって、ゆっくり・はっきり・具体的に話しましょう。
- 言いたいことをうまくまとめて話せなかったり、言葉が出にくい人もいるので、本人の話をゆっくり時間をとって聞きましょう。
- イライラしているときは、静かなところで落ち着くまで待ち、話を聞きましょう。
- 大切な説明や予定は、メモに書いて渡しましょう。
- 自分から行動を起こしにくいことがあるので、声をかけましょう。
- 選択肢を示し、「はい」「いいえ」で答えられるようにしましょう。
- 道や建物の中で迷うことがあるので、目的地まで誘導しましょう。
- 混雑している場所では人や物にぶつかることがあるので、誘導しましょう。
- 危険な場所がわからないので、声をかけたり一緒に行動しましょう。
- けがをしているのに気づかないことがあるので、本人の言葉だけでなく身体状況を観察しましょう。

## ■ 避難生活支援で気をつけること

### 【避難所での支援】

- 新しい出来事や場所を忘れやすいので、一人で避難所の外へ出ると戻れなくなることがあります。また、避難所の中でもトイレや自分の居場所がわからず迷うことがあります。そんなときは声をかけて状況を確認し、必要に応じて誘導するよう配慮をお願いします。

- 食糧や物資の配給を待てずに怒ったり騒いだりすることがあります。そんなときは、まず落ち着いてゆっくり話を聞くよう配慮をお願いします。
- 言葉が出ずに困っているときは、本人の状況を推測して選択肢を挙げたり、絵や図を活用し表現のサポートをするよう配慮をお願いします。
- 手続きや書類の記入は記入例を提示したり、一つずつ説明をする等の配慮をお願いします。

### 【情報提供】

- 大事な指示を聞き逃したり、理解できなくても「はい、わかりました」と答えたりすることがあるので、メモに書いて渡しましょう。メモには記入日時、記入者名も記載しておきましょう。
- 何度も同じことを聞くときは、いつも見える場所にメモを貼ったり、繰り返し説明するよう配慮をお願いします。

## ■ 災害発生時に困難なこと

- 混雑しているところでは、道に迷ったり、人や物にぶつかったり、避難所への目印等も見落としてしまうことがあります。
- 外見からわかりにくいので、周囲の人の理解や支援を得にくいことがあります。

## ■ 本人、家族等から支援者へ (知っておいてほしいことを記入しましょう)

(自由記述欄)

(例) 新しいことを覚えるのが難しかったり、日時を間違えたり目的地がわからなくなったりします。感情の抑制ができず、災害時には周囲の音や人の出入りに敏感になり、とても疲れやすくなります。私たちの障がいを理解していただき、いざというときには手助けしてください。

